

Affiliated with the International Association
THE Y S MEN S CLUB OF TOKYO HACHIOJI
Chartered October 30, 1994



〒192-0906
東京都八王子市北野町575-22
並木 真 TEL: 090-4314-3044
Fax: 042-649-5276
E-mail: m.namiki1020heartbeat@gmail.com

2024年1月

The Service Club of The YMCA

第343号

東京八王子ワイズメンズクラブ

会長 並木 真
副会長 久保田 貞視
書記 小口 多津子
会計 長谷川あや子
直前会長 花輪 宗命
担当主事 菅野 牧夫
ブリテン 山本 英次 茂木 稔
大久保 重子

国際会長 ウルリック・ラウリドセン (Denmark) 主題「輝かそう、あなたの光を」
スローガン「良いコミュニケーションは、全ての協力関係の基礎である」
アジア太平洋地域会長 利根川 恵子 (川越) 主題:「変革のための光となろう」
スローガン「親睦を通して、輝き、力を得よう」
東日本区理事 山田 公平 (宇都宮) 主題:「未来のために今、学びと気づきを！
未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う！」
スローガン「ユースアクションをワイズの主要な活動の一つに」
あずさ部部長 森本 俊子 (長野) 主題「よい結果をもたらす心の安定と考える力を」
～面白いと思えることを再発見しよう～
八王子クラブ会長 並木 真 主題「リアルな活動とつながりを！出来ることをやる！」

2024.1月例会プログラム

【新年例会】

(担当:C班 並木信一、大久保重子、山本英次)

日時:1月27日(土曜日) 18:00~20:00

会場:八王子市北野事務所2階大会議室

<プログラム>

受付:大久保、並木(信) 司会:山本

- *開会点鐘 会長:並木 真
- *ワイズソング 一同
- *ワイズの信条 一同
- *聖書朗読・開会祈祷 並木(信)
- *ゲスト・ビンター紹介 会長:並木 真
- *卓話「東京多摩いのちの電話創設への思い
～創設から今日への歩み～」
東京多摩いのちの電話財務委員長
鶴 清忠氏(元東京YMCA主事)
- *報告事項・連絡事項 会長・YMCA・各委員
- *スマイル(能登半島地震災害支援) 大久保
- *ハッピーバースデー (佐藤信也、佐藤正子)
- *閉会点鐘 会長:並木 真

巻頭言

2024年在京ワイズ合同新年会

長谷川あや子

1月13日(土)東京YMCA東陽町センターにて4年ぶりの賀詞交歓会のある在京ワイズ合同新年会が東京グリーンクラブのホストによって開催されました。昨年は早稲田奉仕園スコットホールでの礼拝とウクライナ支援チャリティコンサートでしたから今年のように一同集まったの会食・交歓のひとときを持ったのは4年ぶりのことでした。第一部礼拝では能登半島地震の犠牲者への黙祷から始められ献金も緊急支援のために捧げられました。第二部のアトラクションはアンデムジークのメンバーによる新春コンサート。ピアノ、ソプラノ、サキソフォ



ライナ支援チャ

リティコンサートでしたから今年のように一同集まったの会食・交歓のひとときを持ったのは4年ぶりのことでした。第一部礼拝では能登半島地震の犠牲者への黙祷から始められ献金も緊急支援のために捧げられました。第二部のアトラクションはアンデムジークのメンバーによる新春コンサート。ピアノ、ソプラノ、サキソフォ

今月の聖句(2024年1月)

すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」イエスは言われた。「律法は何と書いてあるか。あなたもそれをどう読んでいるか。」彼は答えた。「『心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」しかし、彼は自分を正当化しようとして、「では、私の隣人とは誰ですか?」と言った。

(新約聖書・ルカによる福音書 10:25~29)

ンの美しい調べ・・・私たちがよく知っている曲の数々が会場を包みました。アダモの「雪が降る」も歌われましたが、新年会の帰路、都内の雨が八王子や町田ではなんと雪になり驚きました。第三部の交歓会は粋でいなせなグリーンクラブらしく鏡開き(樽酒割り)から始まり、テーブルには檜の榎酒も用意されていました。美味しかった！江戸時代から伝わっている技法による甘酒も振舞われ女性に喜ばれました。

在京クラブ—関東東部(江東、グリーン、ひがし、ベイサイド)、東新部(東京、むかで、世田谷、町田コスモス、センチアル、多摩スマイル)、あずさ部(西、武蔵野多摩、サンライズ、八王子、たんぼぼ)の他に十勝、宇都宮、埼玉、川越、千葉ウエストの各クラブから合計 99 名の出席者でした。八王子クラブからの出席は並木真会長、久保田さん、花輪さん、小口さん、長谷川の 5 名でしたが、3 月のコンサートの宣伝、チケット販売はしっかり行いました。

東京グリーンクラブは浅見隆夫さん、布上征一郎さんを相次いで天に送り寂しくなりましたが、今年の新年度のホストクラブとして樋口会長始めクラブ全員の皆さんが丸々とおもてなし下さいました。本当にありがとうございました。



松本クラブ 35 周年記念例会に参加して

長谷川あや子

12 月 10 日 (土) 前日よりの暖かさが残るなか、松本クラブ 35 周年記念例会・第 25 回アジア賞授賞式に参加いたしました。会場は懐かしい深志神社梅風閣でした。

松本クラブ 35 年の沿革を見ますと、1988 年にチャーター。1 年後には韓国海雲台クラブと IBC 締結式を行い、その翌年は海雲台のコメントを会員宅でホームステイしています。5 年後には大阪泉北クラブと DBC を締結し、現在まで毎年交流会を開いていて 35 周年記念例会も 8 名の方が出席されました。1990 年に第 1 回アジア賞を開催されましたが、松本クラブのチャーター以来のこのような海外のクラブとの積極的な交流があつて

こそと納得いたしました。

第 25 回アジア賞授賞式では最優秀賞に輝いたポーランドのマリアさんをはじめフィリピン、マレーシア、中国、韓国、タイの留学生が出席され、在日 1~2 年にかかわらず美しい日本語で受賞の喜びを語ってらっしゃいました。交流会ではひとつのテーブルにワイズと留学生が入り混じり、自己紹介しながら懇親のひとつときを持ちました。今まで何回かアジア賞授賞式に出席いたしましたが、松本クラブの皆さまはもちろん選考委員の先生方の熱心な応援に改めて感銘を受けました。そして年々、留学生の皆さんがのびのびと楽しそうに日本での生活を送ってらっしゃるのを感じました。



若い彼らの前途に幸あれと心から思った一日でした。

高尾山健康登山200回達成並びに祝賀懇親会

久保田貞視

東京八王子ワイズメンズクラブで故橋本秀昌君、長谷川あや子さんたち、クラブの仲間八王子に高尾山があり、皆の健康のためにも高尾山に登り、高尾山の歴史を学び、地歴、植物、野鳥などを観察しようとしたのが最初でした。2007 年 1 月 29 日を第 1 回目としました。

それから毎月 1 回、高尾山に登り、途中からも多くの番外登山も入れて約 17 年が経過しました。過ぎてしまえば短いようですが、高齢になっての 17 年間は非常に長く、その間、天国に召されたもの、病気で参加できないもの、グループを脱退した者もありました。10 回目位から友人や他クラブのワイズ、更に友人の紹介で参加される方も毎回 10 人前後で減少せずが続いています。

これまでの登山で記憶に残るのは 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災直後の第 51 回目の高尾山で 3 月 14 日、京王線は不通、元ワイズの田中さんは高尾住まいのため歩いて先に登頂し、久保田は JR 八王子駅からバスで高尾に行き、そこから歩いて高尾山口に。稲

荷山ルートに登り、稲荷山頂上で下山する田中さんと握手して私は頂上に、人影はただの一人だけでした。振替日の第 51 回目を翌週の3月21日としたが大雨のため、登山したのは田中さん、岡垣君と私の3人だけでした。2010.1.11 には山本さんが幼いお孫さんを連れてこれ一緒に登ったこと。2013.1.14 は大雪で誰も登らない山を金内さん、田中さん、久保田で1号路に登り、薬王院でお参りして頂上を目指そうとしたらお寺の方から雪が1メートル以上積もっているので危険だと言われ、1号路を下山したことがありました。

2015.3.9 には 100 回記念で、14 人が登り、全員、祝会に参加して会を盛り上げました。2012 年9月、2013 年9月には富士五湖クラブの望月ワイズが本8合目のトモエ館で支配人しているので予約し、夫々10 人、11 人で登頂しました。丁度、富士山が世界文化遺産になる前の年となった年で記念すべき登山となりました。また、ワイズの富士山例会にも富士吉田口の馬返しから5合目の佐藤小屋まで昔の登山道を約3~4時間かけて登っています。150 回記念では御岳山に登り、小説家の浅田次郎の母親の実家である御師の家「山香荘」でそば懐石で祝杯しました。2020 年3月からのコロナ禍の3年間も奥多摩地区を中心に他県にはいかず、奥多摩や五日市の山々を登り、誰もコロナにかかわらず過ごすことができました。2020 年からは第4週を番外登山として高尾山以外の山を選び登ってきました。これまでに大菩薩嶺(峠)に2回、三頭山に2回、御前山に1回登頂しています。

今回の200回記念懇親会は高尾山口の清流亭で懐石料理としゃべり、全員が思い出を話していただき盛り上がりました。このように高尾山健康登山を継続でき



たのも皆様のご協力のお蔭で約 17 年が過ぎました。来年度からは高尾山登山は毎月継続したいと思いますが、番外はメンバー交代で計画していただき出来るだけ多くの方が参加できるのを願っています。

(祝賀懇親会出席者のワイズメン)

出席者14人のうち山本ワイズ、長谷川ワイズ、東京西クラブ本川ワイズ、久保田の4人

クラブメンバー年頭所感

2024 年初にあたって

久保田貞視

うさぎ年から辰年に、登り龍の年でもある。わがクラブは今年 10 月で創立 30 周年を迎える。これまでを振り返り、クラブ員全員で真剣に会員増強に努めることと中大ひつじもの学生にとっても魅力ある卓話を計画、より彼らを引き付ける努力をし、クラブの活性化を図りましょう。

「新年にあたって」

小口多津子

「今年もワイズライフでよろしくお祈りします。月並みですが健康が一番です。私は、食事がいつも美味しいので元気が続いています。

13 日にありました在京ワイズ新年会の時、プログラムで奨励をされた西澤紘一ワイズ(東京グリーン)のお話に心うたれました。太平洋戦争の時に、フィリピン現地は日本人により大打撃を受けたにも関わらず、彼らの中に一貫して保たれたものは日本人を「許す」という一言であったこと。この許すことが何よりも最初であり、初めてその後両方に希望が生まれ、開かれ、平和に繋がるがお話の主旨でしたが、本当にその通りで、これこそ人社会の中で、この一言が永遠の目指すところだと同感でした。」

終活を目指す

山本英次

辰年の次は「巳年」ですね！

来年には、私は 7 回目の年男となります。

84歳という年齢は一つの目標でもありました。健康で大病もせずこの年まで生きてこれたことは僥倖と言えましょう。多くの友人に恵まれて「運も良かった」けれど楽しい人生であったと満足している。上を見れば限がなく、自分の体力・知力を知ればそこそこの歩みが出来たと思う。優秀なワイズメンに囲まれて、チャーター以来どうにかしてワイズ活動の一端に携わる事が出来たのも、巳年の同期生たち(橋本君、大久保さん、津田さん)の助けがあればこそである。三人天国で待っていてくれ！もうすぐ行くから？

Merry Christmas

八王子ワイズメンズクラブ

特集号

クリスマスメッセージ・祈祷

千原 創 牧師

千原 創(ちはら はじめ)と申します。山口県の出身で 20 代の半ばくらいまで関西にいました。その後、広島、北海道、そして東京に来て、約 10 年位前から八王子に住さらにもう少し山に向かうと保育園があって、



普段は保育園の園長をしながら、日曜日は教会の牧師をしております。今日は真会長からご指名を賜りまして、駆けつけさせていただきました。よろしくお願いいたします。

クリスマスのお話をさせていただきます。クリスマスという日本語で言ってしまうと漠然としてしまうのですが、英語で書けば Christmas となります。Christ(キリスト)という言葉がはっきりと英語だと記されています。つまり、クリスマス(Christmas)はキリスト(Christ)を拝む・礼拝をする(mas)というのが、そもそも Christmas クリスマスとなります。

今日は、このキリストを礼拝し、その誕生をお祝いするというお話です。イエス・キリストは、ユダヤのベツレヘムという町の家畜小屋でお生まれになりました。皆さんが子供を産むとすると、家畜小屋で産みたいでしょうか。聖書を読んでいると、王様の命令で、マリアとヨセフは旅をしていたと書かれています。王様が国民に住民登録をさせるためです。これは人口調査をして、国民から税金を取るためです。そのために、国民の人数を把握しておく必要があるわけです。王様の都合によって、国民がいわゆる日本的に言う本籍地に行くとちゃんと登録しなさいという話です。マリアとヨセフは当時ナザレという村に住んでいたのですが、王様の命令で、

ナザレという村から、本籍地の町ベツレヘムというところまで登録をしに行かないといけないという状況が生じたわけです。マリアとヨセフからすれば、できれば、自分の家で出産をしたかった。その当時、病院がどこまであったかというところはわかりませんが、町の信頼できるいつも診てもらっているお医者さんのいる場所で出産したかったというのが多分本音だと思います。けれども、実際に妊娠 10 ヶ月目を迎え、いつ生まれてもおかしくないという状況の中で、今住んでいる村を離れ、遠い旅をし、その旅先で出産をするという出来事が起こるのです。しかもその旅先で宿泊場所が見つからないという事態が起きているのです。このことを考えると、非常に悲惨な状況の中で出産を迎えたということがわかります。それでも道端で出産したわけでもないですし、イエス様を寝かせる飼葉桶もあったと考えれば、それだけでもよかったと言えるかもしれません。けれども、住み慣れた家でもないですし、ちゃんとした宿でもない。生まれたばかりのイエス様がいたのは家畜小屋だった。しかも夜の出来事です。誰もが家の中に入って温かくしている状況がある。当然、もう夜だから、外のこともなんて誰も気にしない。そういった中でこのマリアとヨセフはろうじて家畜小屋に身を寄せて、生まれたばかりのイエス様を家畜の餌箱をベッド代わりにして寝かせた。それが最初のクリスマスの出来事です。

赤ちゃんが無事に生まれたということは嬉しく、お祝いするに値するかもしれませんが、それ以外の状況は、とても喜ばしいような状況とは言えません。ある意味悲惨な状況の中での出産です。クリスマスというのは救い



主の誕生の出来事ですが、実は、このようにとても弱く、小さく悲惨な状況の中に、救い主が誕生する、というのがクリスマス

の本当の意味です。「救い主」という訳ですから、救いを求めている人のところに、救いを必要としている人のところに、救い主が来るわけです。ですから、別に救いなんか求めてない、私は今満足している。十分に安心した環境もあるし、安全な状況もあるし、私は自分なりに幸せだと思っている。そうした人々は救い主の存在には気づかないのです。なぜなら救いを求めてないか

らです。しかし本当に救いを求めている人、今とても大変で、とてもしんどくて、どうしようもない、なすすべもなく立ちすくんでいる。そういった人は、救い主と出会うことができるのだと思います。イエス様が家畜小屋でお生まれになったように、まさに悲惨な状況の中に、喜びが与えられていく。これが、救いを求めている人には確かな救いが与えられるという、クリスマスのメッセージです。

今日は絵本をお持ちしました。クリスマスを題材にした絵本です。アンデルセンが書いた「マッチ売りの少女」という絵本です。若い方や保育園の子どもたちはマッチが何かを知りません。しかしYMCA関係の方にはマッチは便利でしょうかという方々ばかりだと思います。この「マッチ売りの少女」をお読みいたします。



『今日は大晦日。一年で一番最後の日です。新年を迎える準備で人々は忙しそうに歩いています。』クリスマスの物語と言いな

がら、実は大晦日の話なんです。日本だと25日が終わるとすぐ新年の準備で、クリスマスが終わりました、という感じなんですけれども、キリスト教の考えでは25日からクリスマスが始まり1月6日までクリスマス期間が続きます。ですから大晦日は、まさにクリスマス真ん中の期間なんです。少女が言います『マッチは何かですか？マッチは売りますか？女の子が人々に呼びかけました。こんな寒い雪の日に裸足で手も足もしもやけで赤く腫れています。マッチは何かですか？マッチは売りますか？女の子は呼びかけ続けましたが、誰一人立ち止まってくれません。家の窓に明かりが灯りました。窓から楽しそうな笑い声が聞こえてきます。美味しそうな馳走の匂いもしています。お腹が空いたわ、女の子は朝から何も食べていませんでした。街の灯も消え、人々は寝静まっています。こんな夜更けだというのに、女の子はまだ歩いています。マッチが一本も売れていないのです。マッチを売らずに帰ったらお父さんにぶたれるでしょう。女の子は足を引きずりながら街をさまよって歩きました。』今でいうと、ひどい虐待で、すぐ児童相談所に通報して保護してもらおう案件になりますが、昔の時代はこれが通用していたのです。『もう歩けないわ。女の子は街外れの軒下で蹲っていました。体中冷え切って凍えそうです。そうかわ、マッチに火をつけたらきつとあったかいいわ。売り物のマッチを使っただけは、お父さんに叱られますけれど、女の子は

もう寒くて我慢できません。“一本だけ、そうつぶやくと、女の子はマッチに火をつけました。シュッと音がして、勢いよく炎が上がりました。“あったかいいわ、なんて暖かいいわ”。炎は次第に大きくなり、その中に大きなストーブが現れました。ストーブは真っ赤に燃えています。まあ、嬉しい女の子は手を伸ばして温まろうとしました。その瞬間、炎は消え、ストーブも見えなくなってしまいました。周りは冷たい雪が降っているだけです。もう少しでも手も足も温められたのに、女の子はもう一度ストーブを見たいと思いました。もう一本だけ女の子はマッチをすりました。今度は炎の中にテーブルが現れ、おいしそうなお酒やこんがり焼けた七面鳥がのっていました。“まあなんて美味しそうだろう”。すると七面鳥はナイフとフォークをつけたまま女の子の方にやってきました。お腹がペコペコの女の子は嬉しくてたまりません。女の子は大喜びで、七面鳥に手を伸ばしました。その瞬間、炎は消えて、おいしそうなお酒も消えてしまいました。女の子はまたマッチをすりました。今度は大きな大きなクリスマスツリーでした。枝にはたくさんのロウソクが灯っていて、明るく輝いています。“まあきれいなこと”女の子が見ているとロウソクは空の上へ上へと並んで登っていき、小さな星になっていき



ました。たくさんの星が輝いています。その中の一つが長い尾をひいて落ちていきました。“あ、流れ星誰かが死んだんだわ”!女の子はつぶやきました

“星が一つ流れるとき、一つの魂が神様のもとに行くんだよ”。ずっと前に亡くなった女の子のおばあちゃんが教えてくれたのでした。優しいおばあちゃんは女の子をとててもかわいがってくれました。“ああおばあちゃんに会いたい!おばあちゃんに会いたい”!女の子はまたマッチをすりました。すると現れたのは懐かしいおばあちゃんです。“おばあちゃんお願い、私を連れてって!マッチが消えたらおばあちゃんも消えてしまうでしょう!どうか消えないで!おばあちゃん!”女の子は大急ぎでありったけのマッチに火をつけました。辺りは真昼のように明るくなりました。“さあおいで”!女の子をしっかりと抱き上げると、おばあちゃんは空高く登っていきました。“おばあちゃん離さないで”!“大丈夫だよ!これからはずっとずっと一緒だよ!”もうこれで女の子は寒いことも、お腹がすくことも、つらいこともないでしょう。次の朝、新しい年の光がまぶしく射していました。女の子はマッチの

燃えカスを持ったまま冷たくなっていました。“昨日マッチを売っていた子が、マッチで温まろうとしたんだね。かわいそうに”。集まってきた人々が口々に言いました。でも女の子がどんな素敵なものを見たかは、誰も知りませんでした。』

こうやって物語が終わっていきます。大晦日の日に、路上でマッチを売っている少女がいる。誰もマッチを買ってくれずに家に帰ることもできず、夜遅くまでどうすることもできずに街をさまよっている。家には怖い父親が待っている。少女は街外れの軒下でうずくまっているわけです。こうした悲惨な状況の中に神様が救いを与えられる。寒い夜の道端で、マッチの小さな明かりと小さな温かさ、そこに少女は素敵な夢を与えられ、



大好きなおばあちゃんに会い、そして寒くもなく、お腹がすくこともない天国へと導かれていくわけです。救い主

が、弱く小さく悲惨な状況の人々の中に来られるということは、最も高き場所におられる神様が、その座を降りて、地上に降り、地上の最も苦しく、惨めで、大変な人の元に来られる。救いを求めている人のところに来られる。そしてその人に救いを与えられるという事です。聖書のクリスマスの出来事、イエス・キリストの誕生という物語は、救い主を生まれたばかりの赤ちゃんとして描いています。一般的に救い主が来られるというと、空高くからスーパーマンがやってきた、仮面ライダーが変身して現れました。という方が、救い主が来たことが分かりやすいです。しかし聖書はこの赤ちゃんが救い主なんだと語るわけです。最も小さな赤ちゃん、それはまさに神様が限りなく小さな、そして最も低い場所に来られるということの意味しているのです。最も小さくて、そして最も悲惨な場所に神様は来られるんだ、ということです。旅先の家畜小屋で生まれる。そうした悲惨な状況の中にある人に喜びを与えるために神様というのは来られるのです。だからこそ、救い主も自らも弱くなって小さくなって、その悲惨な状況の中におられるのです。

はたしてマッチ売りの少女は救われたのでしょうか。確かに救い主によって、神様の力によって少女は天国へと導かれて救われました。そして、この地上では考えられない安心安全な神の世界の中で、ゆったりと天国で永遠の命の中で生きていくのでしょうか。けれども、現実にこの少女はどうだったのか、短い人生を超えて、誰からも顧みられることなく、道端で倒れて死んでいる

のです。少女を救う手立てはあったはずなのです。神様は救い主をこのように低き小さな存在としてこの地上に送られました。誰かの助けがないと生きることができない赤ちゃんとして、そこまで小さい低い存在として来られるわけです。これは、とても小さく低いものを助け、救うという出来事を、神様だけで、イエス・キリストだけで成し遂げようとはされなかったという事を意味します。大体のヒーローは一人で活躍して、一人がヒーローになると終わりです。そうじゃない。それがChristmasなのです。Christ(キリスト)を礼拝する。その救い主に賛同し礼拝する人たちが仲間として集まるのです。この方こそが救い主だ。神がいるとするならば、こういう神であってほしい。そういう人たちが集まるのです。実際にマリアとヨゼフもその悲惨な状況の中で、救い主の誕生という喜びが与えられただけではなく、そこに羊飼いや、外国の博士たちがお祝いに来てきたのです。その後も、多くの人々がその救い主の誕生を喜び、賛同し、共鳴をしていきます。そして、イエス様は生涯の中で多くの人々に愛され、受け入れられながら、その人たちと共に生きようとされ、また仲間や弟子たちができました。神様は自ら、低き小さい者の救い主として来られました。そして同時に、そのことに共感する私たち人間一人一人にも同じように、そうした低き小さいものを助け、共に生きようとする、そういう人生を歩んでほしいと、神様は願っているのだと思います。

私たち人間には心の優しさがあり、心の豊かさがあるはずですが、神様はそれに賭けているんです。それを信じているんです。救い主が救いを行う。その救いの出来事を神様だけに任せるのではなく、私たち人間もその救いの出来事に参加することができるのです。救い主が与えられ、私も救われていく、しんどい時に大変な時に救われていく、と同時に、私もまた困っている人に手を貸すことができる。つらい人に声をかけることができるのです。マッチ売りの少女に対して、マッチを買うことができたかもしれない。そのことを、神様はこのクリスマスを通して教えて下さっているのだと思います。クリスマスという救い主の誕生の出来事というのは、神様がこの世を救ってくださるという出来事の始まりである。と同時に、私たち人間がそうした神様を愛しつつ、また隣人を愛する、そのことによって本当の救いが成り立っていくということを教えて下さっている出来事なんだと思います。しかも私は一人ぼっちじゃない。神様という味方がいるだけでなく、わたしたちには、志を共にしたこういった仲間がいます。こうした仲間一人一人と手を取り合いながら、隣人に心を向けていく、その優しさや愛情によって私たちは救われ、また多くの人々が

救われていくのです。その救いの広がりを、さらに世界へと広げていくということが私たちには求められているのだと思います。

最後にお祈りをさせていただきます。

《いつも私たちと共にいてくださる愛と恵みにあふれる神様。泣いている者、苦しんでいる者、悲しんでいる者、打ちひしがれている者と共に、救い主イエスキリストは今日もおられ、また私たちと共にもおられ、私たちを愛し、また見守り、支え、導いてくださっています。その事柄に心より感謝をいたします。どうかそうした神様の大きな愛に、私たちの心が豊かにされ、私たち一人一人も、心の優しさの中で隣の人々と繋がりがながら、また仲間と繋がりがながら、自分だけでなくまた自分以外の人をも大切に思う、そうした優しさの中で生きていくことができるように強めていてください。一言のお祈りを主イエスキリストの聖名によってお祈りします。アーメン》

甲府21ワイズメンズクラブ 公益財団法人山梨YMCA 理事長の挨拶

野々垣 健五

こんばんは。今日は甲府21のメンバー、4名でお邪魔しております。私と佐藤重良前理事は、甲府住まいです。今、ここで写真を撮っている山本俊一君は甲府21クラブなんです、松戸に住んでおります。野々垣和宏は私の甥っ子ですが、船橋に住んでおります。そのうちに二人とも千葉クラブに引っ張られるかも知れません。今日は私どもは3人で同う、と



いうことで当初、お願いをしました。伺う理由の一つは、今日見えてない花輪さんに、

先月、21クラブで1時間にわたって卓話してもらったんです。本当に彼は、準備を重ねて重ねて卓話してくれました。そのお詫び、御礼をしようと考え、今日、参りました。又、佐藤さん情報で「久保田さんが香港で大怪我をしたということで大丈夫かな？」という話もあって、今日は一緒に参りました。

私は、山梨YMCAという公益財団法人の理事長を大澤英二さんが亡くなる直前から今日まで、3年半させていただいておりまして、資金繰りに苦

しみながらも「デッポウケ」やっています。この言葉は、「とにかく何でもどンドンやっちゃう」ということで、今私どもが活動している状況を表現している言葉です。山梨YMCAは、現在、従業員が80名になりまして、年間の取扱いが2億3千万円です。今、新しいプロジェクトとして、山梨県韮崎市北西の中田という町（ここは甲府より北西に15km）に七里ヶ岩ラインという地域がありますが、その土地を約4200坪ほど譲っていただきまして、そこを自営のキャンプ場として開発しようと準備を進めております。実は明日の朝、日曜日ですが、8時半からデイ・ワークに学生が10人来てくれますので、その学生達の為に5人でカレーライス朝8時半から作ります。私もその日の係で、そんな作業を明日はやる予定です。又、明日は、竹を切る作業を山の中で学生ボランティアの人にやってもらう予定です。興味のある方は見に来ていただければと思います。キャンプ場が何とか来年の夏に稼働できないかなと思いつながらプロジェクトを進めております。私は常日頃、スタッフに売り上げ（事業収入）のことを言っておりますが、とにかく収支を合わせるというところで行きますと、キャンプというのは収益が悪く、大して売り上げも上がりません。ただ、自営のキャンプ場を持つということとか、もっと広い地域からお客様というか、YMCA、或いはICUとか、東洋英和といった色々なミッション系の大学の学生にも来てもらおうとかは、この先々の事業収入に結び付ける手立てになると考えます。その様なことを実は経済産業省が認めてくれまして、今、事業再構築という補助金制度がありまして、それを、来週以降に12回目の事業再構築を申し込んで、3千万円補助金がありたら、あと2千万円ほど自己資金を準備し、それで事業を進めようとしているところです。今、一番興味を持って考えるのは、ICUがワーク、デイ・ワークを学習の単位として認めるように出来ないかというようなことで、更に、通信制を持った高校がそこでデイ・ワークとかキャンプを勉強するというようなことで単位が出来るかとか、色々な道筋を増やし、変えていくというようなところです。その様なことをYMCAとしてやらせていただきたいというところです。

山梨YMCAは、県内の四つのワイズメンズクラブに強く支えられています。山梨県は人口約80万人、ワイズメンズが約100名。そして、プロテ

スタントの教会、更に山梨英和学院と、小さなコミュニティの中で、四つの機能が支え合ったりしております。この「つながり」をYMCA中心に、どんどん強化出来ないかなと考えています。私はもうこの3年半経過しておりまして、来年3月で何とか後任に譲りたいところです。が、なんせまだ1億7千万円の借金があるんですから、これを引き継いでくれる人がいません。どうぞ全国から募集致しますので、ぜひとも応募していただきたいなと思っております。よろしくお願ひします。



だいた次第です。久しぶりにお会いしましたが、ワイズの皆様は私が学生の頃と変わらずお元気で、びっくりしています。

いつもひつじくものことを応援してくださりありがとうございます。私は今YMCAのスタッフとして働いていますが、お仕事をしている中でも「八王子ワイズとひつじくも(学生YMCA)の関係性がうらやましい」という声を耳にすることがあります。ワイズとひつじくもの良い関係が続いているのは、ワイズの皆様がいつも学生たちに声をかけ、応援してくださり、温かく迎え入れてくださっていること



の結果だと思っております。今夏にはユースコンボケーションに5人の

学生の参加を応援くださり、本当にありがとうございます。これからも引き続き、皆様の豊かな知見と温かい笑顔で学生の活動を応援いただけますようお願いいたします。

ブリテンに目を通して見ると、天に召されたワイズの方たちのことも思い出されます。卒業生にワイズの方の消息をお知らせすると、「すごくよくしてもらったよね」「笑顔が忘れられない」「寂しいな」というコメントが返ってきます。卒業生は本当に忙しくて、なかなか顔を出すことができませんが、学生時代の活動や、ワイズの方たちにお世話になったこと、よくしてもらったことなど、今も心の中にあって支えとなっていることがわかります。卒業生を代表して改めて感謝申し上げます。卒業生もそれぞれの場で頑張っておりますので、応援していただければと思います。また皆様にお会いできる日を楽しみにしております。

想いの八王子ワイズ

ひつじくも卒業生会 会長 柳原絵里子

クリスマスおめでとうございます。八王子ワイズメンズクラブのクリスマス例会にお招きいただきありがとうございます。第一部には間に合いませんでしたが、第二部の祝会を皆様と一緒にお祝いできることに心から感謝いたします。

初めて八王子ワイズメンズクラブの皆様とお会したのは何年前かと数えてみたら、23年も前のことで、自分でも驚いてしまいました。街頭募金をしている八王子ワイズメンズクラブの皆様

のところに、YMCAの三角マークをみつけて、「YMCAだ！」と思って声をかけさせていただいたことがきっかけだったと思います。

卒業してからも声をかけていただき、また毎月ブリテンをお送りくださりありがとうございます。毎月楽しく拝読しております。今回は久しぶりのクリスマス例会ということでお声掛けいただき、私も嬉しくて参加させていた



最後のクリスマス例会

ひつじも 4年 関口遼

こんにちは。新年あけましておめでとうございます。中央大学4年文学部の関口遼です。久々にブリテンに載せていただけるので、はじめに簡単な自己紹介をさせていただきます。埼玉県出身で、大学では主に中



語と中国の文化について広く勉強をしております。2021年秋から2022年の秋までひつじも

の委員長を務めておりました。現在は就職活動を終え、卒論を執筆し終え、卒業及び社会人へのカウントダウンが差し迫っている状況でした。

12月9日(土)に行われましたクリスマス例会は、私にとって2回目であり、同時に学生時代最後のクリスマス例会でした。私は入学とほぼ同時期にコロナに見舞われた代でしたので、2022年のクリスマス例会が初参加でした。今回はバイオリンとピアノという贅沢な演奏を生で聞くことができ、またみんなで和気あいあいと歌を歌って、八王子ワイズメンズクラブのみなさんとまた一段と距離を縮めることができたと思います。

2024年の3月に私は中央大学を卒業し、4月からは社会人として仕事をするようになります。大好きなひつじもからも卒業しなければなりません。ひつじもでの活動を振り返ると本当にあっという間であったと感じます。2020年秋にひつじもに入部し、当時新たに委員長になった渡辺伊純先輩に誘われ、オンラインの定例会に参加したのが八王子ワイズメンズの皆様との出会いでした。何も知らない自分に、zoomで優しく声をかけてくださったことがうれしく、今でも覚えております。みなさまと初めてお会いしたのが2021年の夏、会



長が山本さんから花輪さんに代わるタイミングでした。何度も画面越しに顔を合わせたみなさんと直接お

会いできて感動しました。2021年の秋に私が委員長に就任してからの1年間で、ひつじもと八王子ワイズメ

ンズクラブより親密になったと確信しています。Youth action 2022に参加したこと、海外研修が復活し、IYCで2名の後輩をタイのチェンマイへ派遣したこと、ひつじもと八王子ワイズメンズクラブの関係性が高く評価され、インタビューを受けそれが第22回YMCA大会で放送されたことなどたくさんの思い出が蘇ってきます。

委員長が泳から大山さんに代わった後も、草刈りBBQや今回のクリスマス例会などの思い出を作ることができました。八王子ワイズメンズクラブという存在は私のひつじもでの人生を振り返る上で欠かすことはできません。毎月の通常の定例会で行われたゲストスピーカーによるお話もたいへん勉強になりました。



社会人になってもまたみなさまとお会いできたらなと強く思っています。そして今後とも中央大学YMCAひつじもをどうぞよろしくお願い致します。

クリスマス例会に参加して

田中博之(東京多摩スマイルワイズメンズクラブ)

今年もクリスマス例会に参加させていただきました。夫婦で豊かなひとときを過ごすことができましたことに、心から感謝申し上げます。



5月の高尾の森わくわくピレージでの草刈り/ハーベキュー以来、半年ぶりの東京八王子クラブのイベントへの参加でしたが、温かくお迎えいただきありがとうございました。やはり

「地元」は良いですね。例年どおり、第1部はクリスマス礼拝でしたが、昨今、ワイズの例会でクリスマス礼拝を執り行うクラブが少なくなっている中で、礼拝を守り続けられていることに深い敬意を表します。千原先生の奨励も心に響きました。

第2部の懇親会もいつもどおり、和やかに明るい雰囲気の中の楽しい集まりでした。永町さん、阿部さんの演奏、並木ファミリーのパフォーマンスもいずれも素晴らしく、大層盛り上がりました。お弁当もとても美味しかったです。

次はチャリティーコンサートですね。盛会をお祈りいたしますとともに、創立30周年を迎えられる2024年が、東京八王子クラブにとって実り多い年とされますように…。



ということもぜひとも覚えておきたいと思います。今日は、たくさんの方々の参加で驚きました。もうこの会場での開催は限界かも知れませんね。いずれは市民会館かJ-COMホールで開催しなければならぬかも。

来年は、東京八王子クラブにとってとても大切な年だと聞いています。久しぶりに、3月にはチャリティーコンサート、そして10月には創立30周年の記念会をもたれるということで、私たちが近隣の者としてサポートさせていただけたら幸いです。

皆さん、元気にここに集まれて良かったと思います。アジア太平洋地域大会の香港で怪我をされた久保田さんもお元気で参加されていらっしゃることを嬉しく思います。

それでは皆さんの健康と、東京八王子ワイズメンズクラブ、東京YMCA、ひつじぐものこれまでの素晴らしい1年を喜び、来年のご繁栄、ご成功をお祈りして、乾杯したいと思います。

ご唱和ください。乾杯!



クリスマス例会 第2部

田中博之氏 乾杯の音頭
(東京多摩スマイルクラブ)



皆さん、こんばんは。クリスマスおめでとうございます。今日の千原創先生のお話の中にあつたように、仲間がいるって素晴らしいことですよね。でも、私たちの仲間で、ウクライナで、パレスチナで、イスラエルで、シリアで、ミャンマーで悩んで苦しんでいる人たちがい

ご列席の皆さんと一流スター☆☆☆の芸



集合写真:田中博之さん提供



晴れやかな並木真会長



優しく見守る衣笠輝夫さん



遠く北海道より 山下 真さん



多彩な才能の山本俊一さん



ひつじも森脇啓心君



折原美結さん



並木ファミリー



酢屋ファミリー



姉妹デュオ(永町匡世さん 阿部智世さん)

AYC2023 参加報告

ひつじくも 1年田中大翔

みなさんこんにちは

中央大学サークルひつじくも所属の田中大翔です。

まずは簡単な自己紹介をさせていただきます。

私は小学校から高校にはいるまで空手をやっていて中学の3年間は全国大会に毎年出場しておりました。しかし、勉強はあまり得意ではなく中央大学にはいるのにはかなり苦戦しました。

そのどちらの経験にも欠かせなかつたのが良き先生の存在でした。先生がわかりやすく丁寧に伝えてくれたおかげで大きな壁も乗り越えられたと思います。

そういった伝える力を育むため現在は塾講師のアルバイトをしております。

次にAYCの概要です。

開催地はネパールの首都カトマンズで開催期間2023/10/25~10/29で東日本は2日、西日本1日の前泊がありました。参加国は日本、ネパール、香港、台湾、タイから合計38名が参加しうち日本は18名ととても多く

また会場はHotel thamel park でした。



次に前泊日です。

前泊日はカトマンズ観光をしました。街は歴史と現代が交差

する不思議な場所で、古代の寺院や広場が近代的な建物と融合している様子に感動しました。ドゥバール広場では、彫刻や建築の美しさに圧倒され、歴史の重みを実感しました。また、2015年の地震から再建された力強さを感じました。猿寺は段を登りながら、広がるカトマンズの街を一望できるきました、寺院の頂上に立つと、巨大な仏塔と広がる風景が綺麗でした。

市場では、活気に満ちた雰囲気広がりが、現地の人々と触れ合うことで、彼らの温かいおもてなしと文化に触れることができました。また、ネパールの美食も楽しませていただきました。モモなど、地元の味覚は新鮮で美味しく、食べ物を通じて文化の一端を垣間見ることができました。

ボランティア的なリーダーシップにおいて、ビジョンを考え、それを行動に移すことの重要性についての演説を聞いて、非常に共感を覚えました。リーダーがクリアなビジョンを持ち、それを明確に伝える

2023 メンバーを結集し共通の目標に向かわせる力があります。

演説で強調された通り、ビジョンは単なる夢や目標だけでなく、未来を形作るための計画や具体的な行動への指針となります。このビジョンがボランティア活動においては特に重要で、志を共有し、効果的に活動を展開するために欠かせません。

また、ビジョンだけでなく、その実現に向けて主導権を握り、主体的に行動することも不可欠です。言葉だけでなく、実際の行動が共感を呼び起こし、メンバーや支援者を引き込む原動力となります。

同世代の海外の友達に折り鶴を教えた経験は、文化の交流と友情の深まりを感じる素晴らしい時間でした。最初は「これって何？」と興味津々で、一緒に楽しみながら新しい技術を学ぶ機会が広がりました。

彼らが初めて折り鶴を折る手応えを感じた瞬間、驚き



や喜びが顔に浮かび、互いに教え合いながら友情が芽生えました。特に、千羽鶴の伝説に触れ、願い事や夢を語り合う機会は、感動的でした。文化の違いを超えて、共通の夢や希望に対する共感が深まり、お互いの背景や経験を理解し合える場となりました。

折り鶴を通して、手に触れながら言葉以上に感謝の気持ちを伝えることができ、心が通じる瞬間がありました。これが新しい友情を育み、お互いの成長を支え合う大切な一歩となりました。折り鶴を通して結ばれた友情は、言葉にできない特別なつながりとなり、この経験が一生の思い出となりました。

二日目はネパールで食料や寝床を提供している施設を訪れ、その経験は心に深く残りました。まず、施設のスタッフやボランティアたちの熱意と思いやりで感動しました。彼らは限られた資源の中で最善を尽くし、支援を必要とする人々に対して温かいサービスを提供していました。

施設に滞在している人々と交流する機会も得られ、その中には様々な背景や経歴を持つ人たちがいました。しかし、どの人も笑顔で迎え入れ、お互いに助け合う雰囲気が漂っていました。彼らは厳しい現状に立ち向かいながらも、希望と尊厳を失っていない様子が印象的でした。

その場にいれた人たちとの交流や、施設の活動を通して、私は共感、感謝、そして人間性の温かさを実感しました。この経験は、贈り物のように心に残り、他者に対する思いやりの大切さを再認識させてくれるものでした。

その夜はカルチャーの歌とダンスで私たちは「さんぽ」とppapを紹介しました。海外の同世代の友達に「さんぽの歌」や「PPAP」を紹介したら、彼らは最初は面食らっていたけれども、すぐにユニークで楽しい日本のポップカルチャーに引き込まれた様子が面白かった。特に「さんぽの歌」の愉快的歌詞やリズムに、みんなで笑いながら一緒に歌い始めて、その明るさとキャッチーさにみんながハマってしまった。

そして、「PPAP」も同じく大ヒット。曲が終わると、「これは一体何だったんだ？」という興奮と笑い声があふれ、その変わり者な歌詞と振り付けにどんどん引き込まれていった。言葉が違っても、音楽や笑いは国境を越えて共有されることを改めて感じた瞬間でした。

この経験を通して、異なる文化のユニークな一面を共有し、笑顔と音楽が人々をつなぐ力を再確認しました。ポップカルチャーは心を通じて人々を結びつけ、異なるバックグラウンドを持つ人たちとも共感し合える共通の言語となることを実感しました。

3日目は同世代のアジアの仲間たちと教育格差について話し合い、その経験は深刻で同時に刺激的でした。各国からの参加者が教育におけるアクセスや質について共有し、その中には格差が存在することが明確になりました。

一部の国では教育機会が豊富で高い水準を誇り、一方で他の国では資源不足やアクセスの制限が大きな問題となっていることを聞きながら、深刻な問題に直面している国々の苦悩を感じました。それにもかかわらず、参加者たちは希望を抱き、変化を起こすためのアイデアや提案を熱心に共有しました。

このディスカッションを通じて、教育格差がアジア全体で共通の課題であるという理解が深まりました。また、共通の目標に向けて協力し、アイデアやベストプラクティスを共有することの重要性が浮き彫りにになりました。同じアジア圏に住む仲間たちとともに、より平等な教育環境を築くために、協力していくことが必要だと感じました。以上で発表を終わります。



2023年度クリスマス例会報告

幹事：久保田貞視

東京八王子クラブのクリスマス例会は毎年、大学セミナーハウスで開催し、今年は12月9日開催、29回目となりました。20年前から中央大学ひつじくもの学生も招待し、夫々、担当班が工夫を凝らして開催しています。

今回は、ビジターとして甲府21クラブ、埼玉クラブ、東京多摩スマイルクラブ、十勝クラブからの参加もあり、また、久しぶりに中央大学ひつじくもOB会の会長である柳原絵里子さんも出席、参加者は30名と賑やかな会となりました。

第一部クリスマス祝会のメッセージは並木信一ワイズが所属している教会の千原創牧師にお願いし、彼はクリスマスに当たって、マッチ売りの少女の絵本から人としてあるべき対応について話されました。

第二部は会場を多目的ホールに移り、アルコールなしの弁当での懇親会となりました。並木真会長の挨拶の後、ゲスト・ビジターの紹介があり、ご挨拶は甲府21クラブの会員であり、山梨YMCA理事長の野々垣健五ワイズにより、山梨YMCAの現状、並びにYMCAキャンプ地確保等の前向きな構想を発表され、続いて、ひつじくも会長の柳原絵里子さんからはひつじくも誕生から1年後にワイズとYMCAの街頭募金から始まり、既に23年になるワイズとの関係に謝意を表されました。

乾杯は東京多摩スマイルクラブの田中博之ワイズによりノンアルコールビールで乾杯、やや豪華な弁当による会食となりました。

余興としては毎年お願いしている永町匡世さんのピアノに妹の阿部智世さんのバイオリンが効わり、ピアノ独奏、ピアノ・バイオリンの二重奏が入り、素晴らしいバイオリンの響きにうっとりさせられました。飛び入りで並木親子の真会長のギターに合わせて「陽のあたる道」「わたしの子供たちへ」の二曲のデュエット、酢屋義元さんのアメージンググレースお独唱があり、全員で「青春時代」と「昴」を合唱しました。

スマイルは毎年12月例会には「多摩いのちの電話」に寄付しています。最後に中央大学ひつじくもの3人の挨拶で関口君はワイズ担当、委員長を経験、4年生で就職も決まり八王子クラブへの謝意表明がありました。またワイズ担当として森脇君から折原さんに引き継いだことの報告がありました。

今日のための差し入れとして甲府21クラブの佐藤重良ワイズより甲府の銘菓を人数分、会員でけがのため参加できなかった稲葉ワイズよりみかん一箱がありました。感謝です。予定時間を30分超過しての散会。

今月の聖句に寄せて(2024年 1月)

並木信一

イエスを試そうとし、自分を正当化しようとする偉い学者の、「私の隣人は誰ですか」という問いに、イエスは例えて話します。

「ある人が、旅をしている途中の道で強盗に襲われ、瀕死の状態になりました。

たまたま、神殿ではたらく聖職者が、続けて、聖職者の補助をしている人が同じ道を通りかかれました。ところが、二人とも、その瀕死の旅人を見ると道の反対側を通って行ってしまいました。

次に、通りかかった旅人のサマリア人は、強盗に襲われ、瀕死のその人を見ると気の毒に思いました。そして、救いの手を差し伸べ、手厚い手当てをしたばかりか、介抱を託した宿屋の費用も払って旅を続けていきました。」

イエスは、尋ねた学者に逆に質問します。「この三人の中で、強盗に襲われた人の隣人になったのは誰ですか」。偉い学者は答えます。「その人に憐れみをかけた人です。」この答えにイエスはさらに続けます。「行ってあなたも同じようにしなさい。」

「いのちの電話」は、このサマリア人 (Good Samaritan) のようでありたい、と願う牧師チャド・ボトラーによって、70年前となる1953年11月2日に、イギリスで「Telephone Good Samaritans」としてその働きをスタートさせました。

初潮を梅毒と思ひ込み、誰にも相談できないうちで自ら命を絶ってしまった14歳の少女。葬儀を行った牧師の、少女の命を支えることができなかった悔いと心からの悲しみ、このようなことを繰り返さない、という祈りから生まれた働きです。

深い孤独、辛い心に打ちひしがれている人の言葉にひたすら耳を傾け、話の内容を評価することなく、話す人の息遣いを受け止めて、心を届ける。「い



のちの電話」はボランティアの相談員 (a man willing listen) によって支えられています。

わくわくビレッジ便り

館長: 菅野牧夫

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。

今年の始まりは能登半島地震から始まり、羽田空港の飛行機事故と波乱の幕開けとなりました。昨日中里さんが能登に先遣隊として向かいました。これからのYMCAの協力の在り方を検討していきます。

12月から1月にかけては、いろいろなことがありました。3期獲得に向けて他施設の視察が始まりました。他の施設を視察すると、わくわくビレッジの良い面、悪い面が色々見えてきました。次期の提案に活かしていきたいと考えています。

12月にはクリスマスグリーティングというイベントが実施されました。X(旧ツイッター)で知り合った、着ぐるみで全国のイベントに参加しているグループの皆さんが、わくわくビレッジに来ている子どもたちにクリスマスプレゼントを配ったり、一緒に写真を撮ったり、子どもたちから笑顔のあふれる一日になりました。

1月13日に東京都の事業「移動式冒険遊び場」が開催されました。現在東京都では学校にいけない子どもたちの増加や子どもたちの考える力を高める必要性が問題となっています。冒険遊び場では指導者の管理のもと、子どもたちが自分で遊びを考え、仲間との遊びのルールを作っていくことで自主性や人間関係を育てていきます。一般社団法人八王子冒険遊び場の会が子どもたちの感性をくすぐる遊び道具を用意し、わくわくビレッジは焚き火を行い、子どもたちの大好きな火遊びを担当しました。当日親はできるだけ手を出さずに子どもたちを見守り、200名を超える子どもたちが楽しい時間を過ごしました。1日中リヤカーを引っ張り、枯れ葉を山盛り集めてくれる子どもたちは印象的でした。1日が終わってみたら、火の番をしていた私は全身灰まみれになっていました。



ひつじくも便り

次期委員長 青山真之介

ひつじくもで次期委員長(共同代表)を務めます、法学部2年の青山真之介(あおやましのすけ)です。ひつじくもは去年末に幹部や係が代替わりして、新しいメンバーで2024年の活動を行っていくこととなりました。全体の目標としてはもっと人数を増やして、活動の幅を広げ、活気のある楽しいひつじくもにすることです。私も委員長として、ひつじくもの発展に尽力していきたいです。また定期活動の維持や、ワイズの皆様も含んだ以前から関わりのある方々の活動を、これからも続けていきます。そのため、来季もお世話になると思いますので、どうぞよろしく願います。

さて2023年のひつじくも最後の活動は、12月23日に多摩センター駅周辺で行われた定期ごみ拾いでした。私含むゴミ拾い係3人で日程を合わせた結果、この日になったのですが、クリスマスイブ前というもあってか人数はあまり集まらず、最終的に6人で行いました。当初の予定では、1時間程度ゴミ拾いをしようと考えていましたが、あまりにも駅周辺にゴミがたくさん落ちていたので、延長してゴミ拾いを続けました。終わった後、ゴミ袋を見た時の達成感は素晴らしいものでした。また、初めて参加した人もいましたが、すんなり活動になじんでいました。やはり「ゴミ拾いは大人のスポーツ」と言われているように、コミュニケーションを通して仲を深めることもできるし、ひたすら歩きながら拾うのでいい運動にもなるのが良いところだと再確認しました。何より環境保全にもつながっているので、一石二鳥どころ



じゃないなと思いました。ゴミ拾い終了後、その

まま帰るのは寂しかったので、ボードゲームを交えた懇親会をサークル室で行いました。みんな楽しく仲良く会話しながらゲームができたので、やって良かったなと思いましたし、これを機にこれからの活動も参加してほしいなとも思いました。

東京YMCA 近況報告

担当主事 菅野牧夫

- 11月23日、山手コミュニティーセンターで「やまてのまつり」が開催され、約400人が来館し、飲食店、クラフト体験、謎解きラリーなど15のブースを楽しんだ。また同日、南コミュニティーセンターで開催した「YMCAあきまつり～みんなでみなみ～」は、模擬店、ゲームコーナー、ミニバザーなどでにぎわった。12月10日に東陽町コミュニティーセンターで開催した「東陽町クリスマスオープンハウス」は、昨年より規模を拡大し、バザー、模擬店、起震車体験、ゴスペルコンサート他、多くのプログラムが展開された。それぞれ、会員、ワイズメン、ユースボランティアリーダー、学生他、多くの方々にボランティアとしてご協力いただいた他、企業や団体からご寄付やご協賛をいただいた。各イベントの益金は、地域奉仕活動、国際協力活動、青少年育成等のために用いる。
- 毎年恒例の「クリスマス募金」の受付を開始した。寄せられた募金は、ウクライナ支援、国際協力募金、障がい児プログラム支援、フレンドシップファンドとして用いる。またAmazonの協力により全国22のYMCAで実施しているチャリティーキャンペーン「Amazon みんなでサンタクロースプログラム」では、Amazonの「ほしいものリスト」により、「下町子どもダイニング」(子ども食堂)、及び困難を抱えている外国にルーツを持つ子どもたちをサポートするための物品支援を呼びかけている。
- 12月1日、台湾南投YMCAの高齢者メンバー約20名がグランチャ東雲を訪問し、交流プログラムが持たれ、通訳等を介して交流を楽しんだ。
- 12月7日、「山中湖センター100周年記念チャリティーゴルフ大会」がPGM総成ゴルフクラブで開催され、会員、賛助会員、専門学校関係者など34人が参加した。益金約20万円



【12月第一例会・クリスマス例会報告】小口

日時:12月9日(土)5:00~8:00

場所:大学セミナーハウス(八王子市)交友館・本館ホール

出席者:(敬称略)長谷川、菅野、小口、久保田、佐和子、望月、並木(真)、並木(信)・雍子、山本、大久保、ひつじくも・森脇3年、関口4年、折原2年、ビジター・田中博之・直美、藤田 智・恵美(多摩スマイル)、野々垣健五、野々垣和宏、佐藤重良、山本俊一(甲府21)、衣笠輝夫(埼玉)、山下真(十勝)

ゲスト・千原 創牧師、永町匡世、阿部智世、酢屋善元、佐藤絵里子 以上29名

第一部:クリスマス例会:司会(望月)、奏楽(阿部智世)
開会点鐘・並木真会長、讃美歌・109番、167番、聖書・ルカによる福音書2章、1-7節

メッセージ・千原 創牧師(日本基督教団八王子ベテル教会)

第二部:懇親の夕べ:司会(久保田)、会食とピアノ・バイオリン二重奏

☆会長よりゲスト・ビジターの紹介 ☆ゲストご挨拶、野々垣健五ワイズの山梨 YMCA 理事長としての現状報告「これからの目標は山梨 Y の運営するキャンプ場が、韮山市中田に予定され、プロジェクト名が「銀河鉄道の森」。若者の森を作り完成させたい」でした。

柳原絵里子さんから、中大ひつじくもと八王子クラブが結びついたきっかけの話とここまでのこと。

会食前の乾杯を田中博之ワイズ発声。

ミニコンサート:ピアノ永町匡世さん、曲目:谷間に三つの鐘が鳴る、インザムードなど。バイオリンの阿部智世さんとの二重奏「チャルダッシュ」は圧巻でした。お二人の父上、酢屋善元さんの歌うアメイジング・グレイスが効かっつての親子3人で。また、並木信一さん・真さん親子のギターによるキャンプソング「陽のあたる道」「わたしの子ども達へ」は会場全体の合唱し、最後は「昇」の合唱で締めくくられました。拍手の鳴りやまない華やかなお祝いの会でした。

ハッピーバースデー・田中博之さん、折原美結さんのお二人。スマイルは、多摩いのちの電話のために募金で、19,500円が集められました。閉会后、記念写真(田中博之さん撮影)。

【クラブ 12月第2例会・報告】書記:小口

日時:2023年12月23日(土) 18:00-20:00

会場:北野事務所2F

出席者(敬称略):長谷川、菅野、佐藤、小口、久保田、並木(真)、望月、花輪、山本 9名

- ① クリスマス例会報告—担当B班 久保田: 日程 12月9日(土) 大学セミナーハウス
出席者、八王子 11名、ビジター10名、ひつじくも3名、ゲスト5名 計29名
スマイルの2万円を、多摩いのちの電話へ送金済み(長谷川)。
- ② 1月第一例会 1月27日土、6時から北野事務所、C班担当
卓話「東京多摩いのちの電話創設への思い〜設立から今日への歩み、そして今」
卓話者:鶴 清忠氏(東京多摩いのちの電話財務委員長、初代事務局長)
- ③ 2月第一例会 2月24日土、北野事務所 A班
卓話者嶋山哲郎氏
- ④ 3月第二例会 3月23日土 北野事務所 B班
(コンサートが第一例会)
- ⑤ チャリティーコンサート・花輪 CS委員長
a)講演者:清水俊弘氏(地雷廃絶日本キャンペーン理事)・久保田さん依頼済み
b)街頭募金 2024年3月2日13時~ 募金箱、横断幕、ひつじくもの応援依頼
c)コンサート 3月9日当日の役割分担、及び時間割表(花輪、佐藤、)
・八王子市広報誌への宣伝記載依頼(花輪)・各市民センターへのポスター貼り、
・会場横断幕の件、新規作成(ウクライナ被災者支援の文言追加など)・照明係、望月
- ⑥ 第2回あずさ部桑都評議会 ホスト:八王子クラブ、
場所:高尾のわくわくビレッジ
2月10日(土)受付:12:30、メンバー集合は10時半、議会と7グループの協議、写真撮影(山本)、懇親会(食事)、会費3000円
役割:開会挨拶(並木真)、総合司会(久保田)、開会祈祷(並木信)、評議会司会(長谷川)
懇親会司会(花輪)、受付・会費(大久保、稲葉、小口)
- ⑦ 次年度クラブ体制(2024年7月~)会長は、並木真会長の2年目も続けてお願いすることに決定。
- ⑦ クラブ創立30周年記念会 日時:2024年10月26日(土)場所、内容は後日決定。
- ⑦ 在京ワイズ合同新年会・1月13日土、YMCA 東陽町センター、並木真、久保田、長谷川、花輪、小口
- ⑧ 「シャローム石巻と石巻広域クラブのカタログマルシェ」について説明、花輪。
- ⑨ 会長から、東京 YMCA ソシアスフォーラム案内。
2月17日(土)2:00~東京山手センターZOOM併

12月のお誕生の方



田中博之さんと折原美結さん

能登半島地震災害に救いの手を

今、私たちに出来ることは何か
を考えましょう！

3月9日のチャリティーコンサートにも
臨時募金箱を用意いたします。

募金活動に積極的に取り組もう！

今月お誕生の方

佐藤 信也さん 1日

佐藤 正子さん 9日

並木 信一さん 20日



先月の例会ポイント (12月)

在籍	13名	切手	45g 計 45g
メン	9名	現金	0円
メイキャップ	1名	累計	0円
出席率	77%	スマイル	19, 500円
メネット	2名	累計	77, 630円
ゲスト	5名	オークション	0円
ビジター	10名	累計	0円
ひっじぐも	3名		



各地の主な震度 1月16日午後6時42分発生 気象庁の資料から

東京八王子ワイズメンズクラブ

対人地雷・クラスター爆弾廃絶のために
ウクライナ避難者支援のために

22回

チャリティー コンサート

奈良原 繭里 ソプラノコンサート
弦の調べと共に

2024年 **3月9日** 土 13:30開場
14:00開演
16:00終演

八王子市北野市民センター 8階ホール(京王線北野駅前2分)

曲目

・カッチーニのアヴェ・マリア ・エーデルワイス ・オペラ「ルサルカ」より「月に寄せる歌」
・懐かしい日本の歌～童謡 ・唱歌メドレー 他 ※当日は変更する場合がございます

出演者

奈良原 繭里 / ソプラノ 笹川 哲史 / ヴァイオリン 中山 博之 / ピアノ



奈良原 繭里
ならはら まゆり
(ソプラノ)

八王子市出身、国文学館短期大学卒業。洗足学園音楽大学卒業。東京音楽大学大学院修了。オペラでは「仮面舞臺会」アメリカ「権威」ヴォレンツァ「ドン・ジョヴァンニ」ドンチ・アナン「トゥーランドット」リュウ、「徳義友安」ジブリ「アンジエリ」の音楽 オペレッタでは「チヤールデッシュ」の女王、シルバド等でも出演。高尾山楽王宮で行われた初の音楽コンサートに出演。2018年八王子市いちょうホール、2022年前半東京船橋市リアスホールでリサイタルを開催し好評を得る。ヴォルツァンソング、ラッセ、ハイルマンに師事。音楽家としての活動。



中山 博之
なかやま ひろしげ(ピアノ)

東京芸術大学作曲科卒業。アレンジャーとして、TVゲームやアニメ作品の制作等、幅広く活動。2021年東京オリンピック2020の閉会式において、オーケストラ演奏した「ファイナルファンタジー」勝利のファンファーレが使用された。ピアニストとしても2010年にワルシャワ・バリエーション作品を演奏。ゲーム音楽のピアニストとしては、世界各所で演奏し地味を上げる。現在、東京音楽短期大学非常勤講師、NHK、読売カルチャー講師。



笹川 哲史
さきがわ かつとし(ヴァイオリン)

東京都出身、幼少よりヴァイオリンとピアノを学ぶ。東京音楽大学在学中より放送局にマエストロ・シヤルリエ氏に師事。東京音楽大学卒業後も、アマダウスの音楽祭の吹奏楽パート・ブレイクイン式の指揮を得て重用を受けるなど、ヨーロッパ各地で楽団指揮を務む。楽団指揮は、コンチェルト等のソロ、室内楽、オーケストラ、レコーディングと活動は多岐にわたる。オーケストラのコンサートマスター、指揮者としても数多くの演奏会に出演している。室内楽等のアンサンブルパートナーとしての依頼も多く著名な演奏家とも多数共演。これまでにヴァイオリンを、ザルバット・ボッセ、藤岡真司、オリヴィエ・シヤルリエ、クリスティアーン・エファンガー、高杉晋三、ヨルダン、ジュリアン・カルネゴウらの各氏に、室内楽をカリスナ特奏楽団、ウルトマール・ヴァン等の各氏に師事。

入場整理券

1,000円

お問い合わせ先：
花輪宗命(090-2213-0257)

主催：東京八王子ワイズメンズクラブ

後援：八王子市 / 地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)